

東日本大震災

クレヨンで 笑顔描いて

胎内・中条小児童

遊び道具を提供

避難女性
呼び掛け性

東日本大震災で被災した宮城県の避難所の子どもへ遊び道具を届けようと、胎内市の中条小学校は児童の家庭で眠っているクレヨンや絵本などを募った。胎内市に避難している仙台市の女性が提供を呼び掛けたもので、段ボール30箱分が集まつた。同小は「いつも周りに応援している人がいることを胸に、元気を出してほしい」としている。



中条小学校児童から寄せられたクレヨンやノートなどの物資を確認する柳沼真理さん＝胎内市大川町の同小

提供を呼び掛けたのは19日から胎内市内の親類宅に家族5人で滞在している仙台市の自営業・柳沼真理さん(54)。宮城県岩沼市の避難所で子どもたちが絵を描くための材料が足りないと連絡を受けた。「大人の発想では欲しいものが分からず、中条小は依頼した。同小は23日の終業式で

「避難所は走り回る場所もありません。子どもたちが自分の思いを自由に描くことができるよう協力お願いします」などと水戸さんが書いた手紙と水戸さんが書いた手紙が読み上げられ、全校児童約600人に物資の提供を呼び掛けた。クレヨンや絵本、縄跳びなどが24日の卒業式までに集まり、現地の子どもたちに向けた励ましの手紙を寄せた児童もいた。

柳沼さんは「こんなに集まるとは思っていなか

った」と笑顔。宅配便で水戸さん宅などに届けられ、今月中に避難所の子どもたちへ渡される予定だ。水戸さんは「新潟からクレヨンが届くと話す

たら、子どもたちが目を輝かせていました。本当にありがとうございました」と到着を心待ちしている。

水戸さんによると、ボランティアをしている岩沼市市民会館には約500人が避難。電気や水道は復旧したが、寒さや風邪の流行のため子どもが外で遊べない状況が続いているという。

沼市市民会館には約500人が避難。電気や水道は復旧したが、寒さや風邪の流行のため子どもが外で遊べない状況が続いているという。